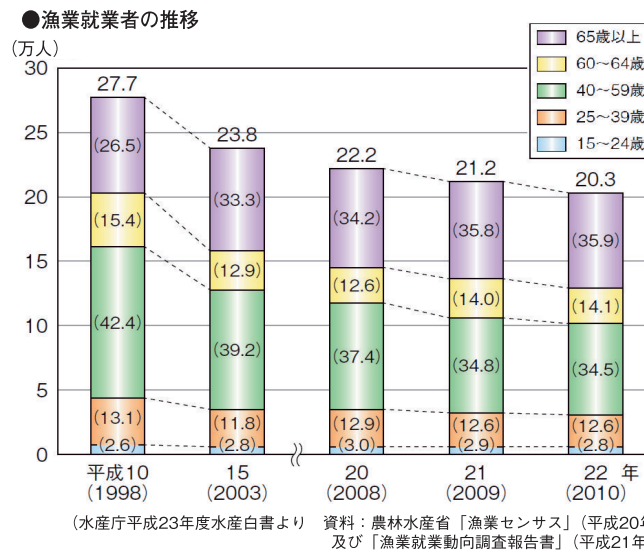


2. 漁業就業者と多種多様な漁法

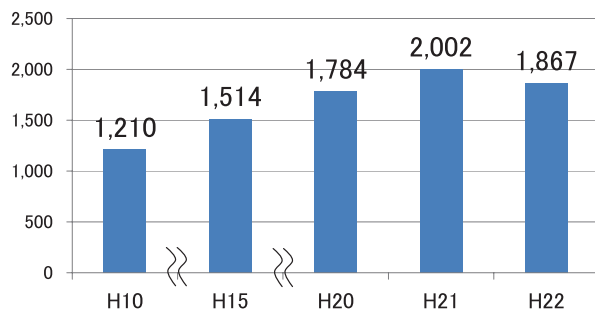
漁業就業者

- ・ 漁業就業者の数は年々減少しており、平成22年現在20万3千人となっています。60歳以上の割合も5割となっており漁業の世界も高齢化が進んでいます。
 - ・ 農業における平成22年度の新規就業者の数は農業就業者約260万人に対し約5.5万人であり新規就業者の比率は約2%となっています。
- 一方、漁業における新規就業者の数は漁業就業者約20万人に対し、新規就業者数は約1,900人であり、新規就業者の比率は約1%です。



- ・ 水産庁では、漁業への新規就業を促進し、漁業の担い手を確保するための事業を行っています。その一環として、新規就業者を求める漁業者と就業希望者のマッチングを行う漁業就業支援フェアが行われています。
- ・ ここ数年は新規就業者は全体で1,700～2,000人前後となっており、漁業就業支援フェアの参加者の中からも毎年数十名から数百名が就業者となっています。今後とも漁業就業支援フェア参加者の増加が待ち望まれるところです。

●新規漁業就業者の推移



(水産庁平成22、23年度水産白書を基に作成 資料：「農林水産情報」(平成10年)、農林水産省「漁業センサス」(平成15、20年)、都道府県が実施している新規就業者に関する調査から推計。(平成21、22年))

●漁業就業者フェア

年度	会場	来場者数	研修生数	就業者数
17年	東京、大阪	370	211	17
18年	東京、大阪(2回)	319	203	42
19年	仙台、東京(2回)、大阪(2回)、広島、福岡	514	77	50
20年	札幌、福井、茨城、東京(2回)、名古屋、大阪、福岡、長崎、沖縄	595	99	54
21年	札幌、岩手、宮城、東京(3回)、福井、名古屋、大阪(3回)、山口、福岡、長崎、沖縄	1,543	124	56
22年	東京(2回)、大阪、福岡	734	351	278
23年	東京、大阪、福岡(2回)	390	280	125

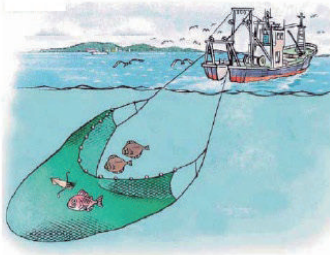
(水産庁漁政部企画課、(一社)全国漁業就業者確保育成センターより聞き取り)

Fisheries

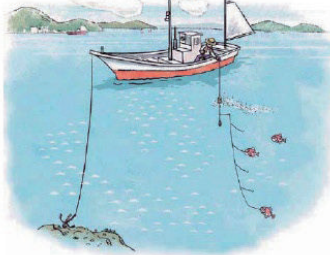
いろいろな漁法

我が国では、対象となる魚介類の生息場所や習性に
応じた様々な漁法により、様々な魚や貝などが漁獲されています。

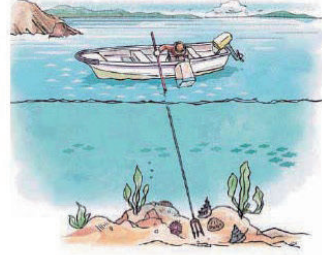
ひき網漁



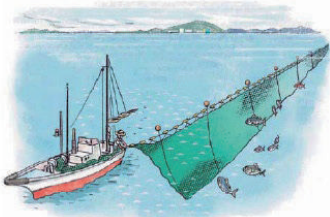
釣り漁



採貝・採藻



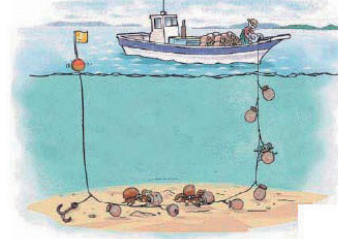
刺網漁



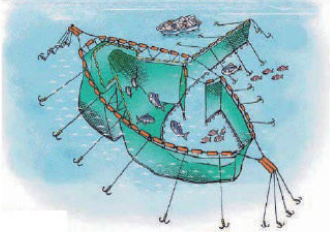
カツオ一本釣り漁



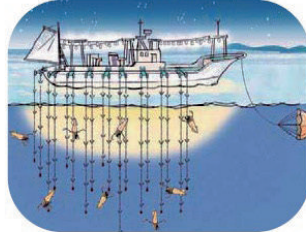
タコつぼ漁



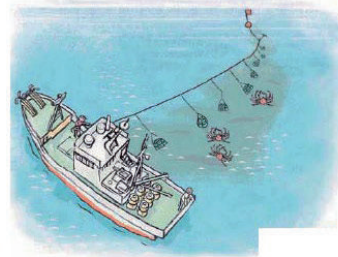
定置網漁



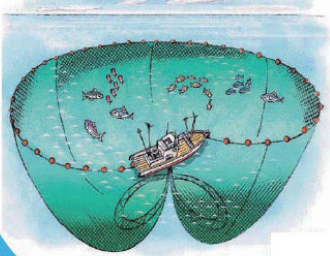
イカ釣り漁



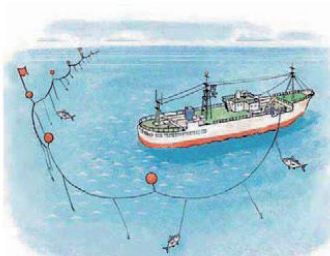
カニかご漁



まき網漁



はえ縄漁



各漁法の詳しい情報

<http://www.ryoushi.jp//gyogyou/>